料理探究

菊酒

私たちの暮らしと酒の関係は、
古く密接なもの。
喜びの酒、悲しみの酒、
人生の節目に酒は登場します。
花見酒、月見酒、雪見酒…
9月9日、重陽（ちょうよう）の節句には
必ず菊酒を飲んでいたそうな。
秋を満喫する菊酒はいかが？
あなたはどんな楽しみ方を
していますか。

出石グランドホテルオープン5周年記念スペシャルナイト'98

庄野真代ディナーショー

5th Anniversary Special Night '98 Mayo Shono

11 29日

●第一部／開演　17:00～
●第二部／開演　20:00～
●会　場／1階グランドプロミネンス〈全席指定〉
●料　金／お1人様 ￥25,000（お食事・お飲物・税金・サービス料込）

●受付、座席券の交換は各開演1時間前より

■ディナーショーご宿泊プラン
（チケットをお求めの際お申し付けください）
お1人様 ￥6,500より
（1泊朝食・サービス料込、税金別）

魅惑のステージとディナーを
心ゆくまでお楽しみください。

暖炉のあるホテル
出石グランドホテル

●お問い合わせ・お申し込み
〒668-0263 兵庫県出石郡出石町福住450番地
TEL 0796-53-1111

菊は霊花と呼ばれ、寿命を延ばす花として尊ばれていたようです。
目で見る美しさと香りも合わせて、楽しまれていました。

9月9日は陽数の9が月と日に並ぶ佳日なので「重陽（ちょうよう）の節句」と呼ばれていました。中国の影響を受け、わが国でも古来宮中では、杯に菊の花を浮かべた酒を飲み、群臣に詩をつくらせるなど菊花の宴がおこなわれていました。色あざやかな美しい菊の花びらを浮かべ、色を楽しみ香りも味わう。雅な人々の風流なようすが目に浮かぶようですね。

農村部の「重陽の節句」は本格的な稲の収穫期に入るときです。農家では収穫にまつわるさまざまな行事がおこなわれていたといいます。

但馬ではどうだったのでしょう。豊岡市香住に住んでいた田井惣助が書き残した「家事日録」の中に、「重陽の節句」のことが出てきます。この「家事日録」は江戸時代、文政11年（1828年）に書かれた日記のようなもので、毎日の暮らしが詳しくわかる重要な文献です。

9月9日のところを見ると、今日は重陽の節句なので神社に参拝し、村役人や医師、分家の家々に節句のお礼に行き、その晩に菊酒を飲んでいます。しかし、この菊酒は菊の花を浮かべた酒ではありません。菊酒ってどんなお酒？作り方は日高町の八代村史に残っていました。明治初期のことが記されている文献です。

「九月九日九ハ陽ナリ月モ日モ九ナルヲ以テ重陽ト云フ陽ハ物ノ長ヲ司トル気ナリ菊ノ節句トモ云フ菊ハ齢ヲ延ハス霊花ナリ
菊酒ハ菊ノ花茎葉共ニ刻ミ米糟ニマゼ器ニ入レ置キ来年九月出シテ飲ム」
（八代村史より抜粋）

菊の花は寿命を延ばす霊花だと書かれています。その霊花を使ってつくるお酒が菊酒。菊の花も茎も葉もみんな刻んでもろみ（濁酒）に混ぜ込み、器に入れ一年間寝かせ、翌年の9月の節句に飲むためにつくられたお酒だったようです。

昔は重陽の節句をお祝いするために菊酒をつくっていたんですね。今はすっかり忘れられてしまったけれど。豊かな実りに感謝し、お祝いをしたのでしょう。菊の花はめでたい花ですから、延命のためにも菊酒を飲んだのでしょう。お酒は百薬の長といわれるのも、うなずけますね。

お米からつくられるお酒は、収穫と大きな関わりがあります。人々の生活と密接な関係がありました。江戸・明治時代、お酒はとても貴重なもので、冠婚葬祭などのときにしか飲まれなかったのです。重陽の節句に飲む菊酒は、人々のさまざまな思いを込めたものだったのでしょう。ちょっと昔に思いを馳せ、菊の花びらを浮かべた菊酒を、風流に飲んでみるのもいいかもしれませんね。

資料：家事日録・八代村史
協力：小谷茂夫さん・日下部昌男さん

故郷が大好き
地域の喜びが私たちの幸せです。
ほくしん

香住町／大乗寺

出石町／辰鼓楼

浜坂町／居組

日高町／神鍋高原
青い空、あおい海・人・ふれあい
北兵庫信用組合
本店／城崎郡香住町香住
支店／浜坂・村岡・豊岡・湯村・出石・日高・八鹿・和田山・香住駅前